

出席：課題で見るとらしい

前回の復習

ないよ

今回の内容

今週何をした・

luliernorija lkurf ny la lex. "edixa fqa'd postus io mi tydiest kutyvalass mal dat lersse."「今週は私は複数のカフェに行き、たくさん勉強しました。」

fafs f. sashimi「luliernorija 氏は最初からきれいなリパライン語書いてたよね」
luliernorija「文法に沿って組み合わせる感じが向いてた」

jekto.vatimeliju lkurf ny la lex. "aiaro leus mi klie japaeo'l."「飛行機を使って私は日本へ来ました。」

fafs f. sashimi「-l は向格ですね。そういやフライトマップの写真を Twitter に上げてたよね」

tarf viri woltsaskaiju "edixa mi lersse ferkaanfi'ero lex konpleustes mels arcieso fal kestene."

fafs f. sashimi「lex はなぜ入れた？」

tarf viri woltsaskaiju「動詞 konpleustes で ferkaanfi'ero を修飾したかった」

fafs f. sashimi「それは lex じゃなくて zu ですね。『話す人』と言いたいなら、lex V は lex lkurf larta と使い、修飾される名詞が動詞の後ろに来ます。でも、zu V の場合は前に来ます。larta zu lkurf と。インドネシア語の yang みたいですね。なお『話す人』は lkurfer とも言えます。『配慮する技術』と言いたい？」

tarf viri woltsaskaiju「『補助する技術』と言いたい」

fafs f. sashimi「それは celdin」

fafs. f. sashimi「あと、arcies ではなく senost を使いたい」

fafs f. sashimi「mels じゃなくて fua の方がいいかも。難しいね。あと senosto のあとに i が欲しい。」

tarf viri woltsaskaiju "edixa mi lersse lex celdin ferkaanfi'ero fua senosto i fal kestene."

「私は大学で聴くことのための補助する技術を学んだ。」

fixa siertija luliernorija 「"edixa mi lersse senosto'i lex celdin ferkaanfi'ero fal kestene" の方がきれいでは？」

fafs f. sashimi「そうするなら後ろに全部下げて zu 節で言いたい。"edixa mi lersse ferkaanfi'ero zu celdin senosto i fal kestene"。ただ i が結局必要になっちゃう」

jekto.vatimeliju「kestene io で文頭に送るのがきれいなんじゃないですかね？」

fafs f. sashimi「edixa kestene io mi lersse ferkaanfi'ero zu celdin senosto'i、これだな。」

fafs f. sashimi「今週あったことを訊くだけで時間結構取っちゃったな」
luliernorija「でも勉強になってる」

nomad "fqa'd postus edixa pormertz dinerges mi."

fafs f. sashimi「edixa は文頭に置くのが規範です」

"edixa fqa'd postus pormertz dinerges mi."

fafs f. sashimi「fqa'd postus で『今週』言えるかは考えたい。まあ『この週』かな。」

jekto.vatimeliju「io が欲しいのでは？」
fafs f. sashimi「ほんまや。なんか違和感あったのよね。」

"edixa fqa'd postus io pormertz dinerges mi."
「この週はテストが私をとて疲れさせました。」

nomad「今週は中間試験の週でした。」

fafs falira sashimi「dinerges は(単一的行為で)疲れさせる、だそうです。」

ミーティングが一回切れる

fafs falira sashimi「ファイクレオネ三大民族、リパラオネ・ラネーメ・リナエスト」
fafs falira sashimi「主に語族で分類される」
fafs falira sashimi「その下により細かい分類が存在。パイグ人とはパイグ系ラネーメ人。」

fafs f. sashimi「リパラオネ人は銀髪碧眼の傾向がある。ラネーメには銀髪はあんまないし、碧眼も少ない。」

fafs f. sashimi「ラネーメ由来の説話だがリパラオネ圏でも知られている。ユエスレオネでは公教育で『燐帝、石に謝す』が出された。これは特権階級である貴族の話をどうにか公教育でやるため」

woltsaskaiju「fentexoler:「反革命」とか訳される概念。詳しく話すと時間をかなり食うけど現世の「反革命」とはニュアンスが異なる」

fafs f. sashimi「ラネーメとリパラオネは思想的にも大きく異なる潮流であったが、互いに影響を与えてきた」

本日のスライド


<https://docs.google.com/presentation/d/1wAdlXQepYC1iMQRih59rhi8cBavseMsuGckNZu5taIU>

jekto.vatimeliju


salfli'ar tisod elx selene icveo lex kafi'a nikul'd lyx.

「王様が、光る龍の卵を得たいと考えた。」

fafs「普通の『王様』、ハタ王国のスカルムレイとか、そんなのを表すときには nermetixalo/er という語を使います。しかし今回のこれはラネーメ説話なので、というか隣理体では salfli'ar は隣帝字

母の【冠】 と対応させることが多い。今回は隣理体じゃないので、」

jekto.vatimeliju「今回はあくまでリパライン語によるラネーメ説話の解説テキストなので、隣理体

の伝統に囚われず、【王】 を表すのに salfli'ar を用いている。」

fafs「『～したい』を入れるには eo lex = elx が必要。icve『得る』の動名詞」

fafs「lex kafi'a『光る(連体形)』nikul'd『龍の』lyx『卵』」

fafs「特に特別なことはないけど、elx 大切ですよね」

la lex veles talso fulx cene firlexo mels eter'd fusaf.

「それ(=光る龍の卵)は、他人の心について知ることができることのために(=として)語られていた。」

fafs「la lex は、リパライン語の指示代名詞において、文脈を指し『前述のもの』。」

fafs「veles talso『語られる』。受動態。」

fafs「fulx は fua elx。こういう風に、前置詞とかと elx が複合するのはよくあること。」

fafs「これもあんまり難しいことはない。」

mal, salfli'ar derok lartass mels melferto la lex.

「そして、王はそれ(=光る龍の卵)を搜索するという役目で人々を雇った。」

fafs「derok 雇った……まあ『雇った』でもいいか。『人に役目を与える』『呼びかける』『招集する』とか。難しい。『雇う』ってほど狭くはない。」

fafs「これも特殊なことは特にない」

pa, lyx veles niv melferto.

「しかし、卵は見つからなかった。」

woltsaskaiju

salfli'ar nea lkurf ny la lex.

王様はこのように話した

fafs「nea 動詞 ny la lex はわりと使われる」

"edixa deliu mi text larta zu es niv etxaata."

「私は愚かでない人を選ばなければならなかった」

snylod larta dytysnon klie mal lkurf ny la lex.

賢い人は新しくきて、このようにいった

"Lu salfli'arsti, harmie selene co firlex lartassa'd fusaf?"

「王様よ、なにゆえ あなたは民衆の心を理解したいのですか？」

Iuliernorija

Salfli'ar vietist ny la lex.

王は次のように答えた。

"Corln voles nieciser's faller loler larta fal undestan. Mi ydicel la lex."

「当然、この世界で多くの人から抵抗者が生まれる。私はそれを恐れている」(意識するなら「多くの抵抗者が生まれる」?)

jekto.vatimeliju「←ここでは、fal undestan は文の修飾ではなく loler larta の修飾で、faller loler larta fal undestan『この世界にいる多くの人の中から』と読みたい。原文は【人多而抗我之人須在】『(世の中には)多くの人がいるので、私に抗おうとする人が必ずいるはずだ』です」

Snylod larta vietist ny la lex.

賢い者は次のように答えた。

"Mal, Salfli'arsti, harmie co tisod niv mels mele'd lartass?"

「それで、王よ、どうしてあなたは近くの人々について考えないのですか？」

nomad

そして、王はそれがわかった

Mal, Edixa salfli'ar firlex ny la lex.

人を大事に扱い、属するものとみなすことが義務であると

Deliu larta ylettavon moliupi'a faistavertz.

fafs「直訳したら『人は小枝を大切に扱わなければならない』。これは比喻表現。」

fafs「原文は【在周之小物】『近くにある小さな物』。」

「nikul はどんな生物？」

fafs「まあ似てる生物です。『ヴァルガンテとシリス』の説話にも出てくる。」